

## 別紙 2

## 【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(中学校用)

都道府県名 岩手県

## 学校の概要(平成 15 年 4 月現在)

学校名	松尾村立松尾中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	16
生徒数	57	67	62	1	187	

## 研究の概要

## 1. 研究主題

「自ら学び、自ら考える力を育成する指導はどうあればよいか」  
～基礎・基本の確かな定着を目指す指導法の研究を通して～

## 2. 研究内容与方法

## (1) 実施学年・教科

全学年・全教科  
生徒が意欲をもって主体的に学習を進めるため。

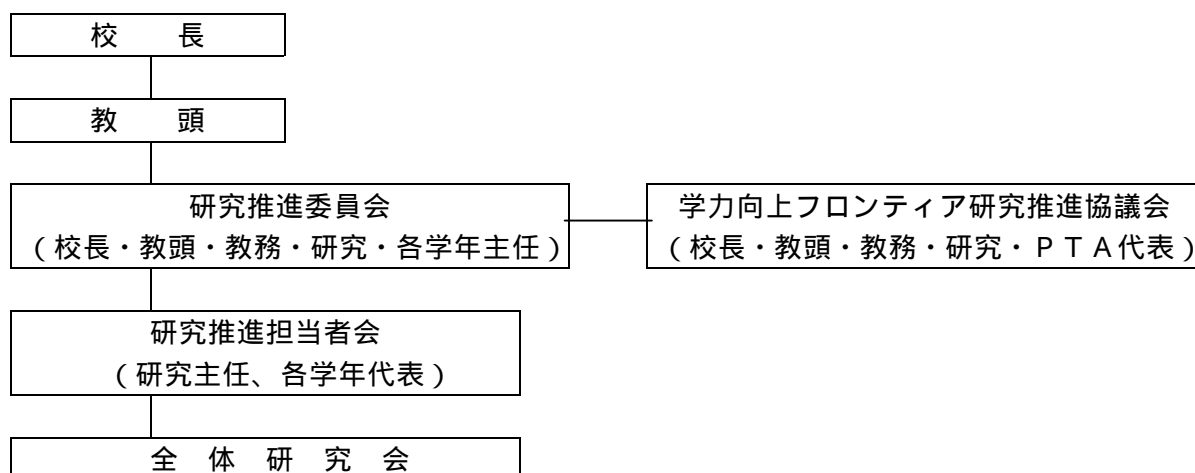
## (2) 年次ごとの計画

平成 14 年 度	<p>テーマ 「自ら学び、自ら考える力を育成する指導はどうあればよいか」 研究の見通し(仮説) 一人一人の生徒の実態を把握し、次のような実践を行えば、学習意欲が高まり、自ら学び、自ら考える力の育成を図ることができるであろう。</p> <p>(1) 基礎的・基本的な内容の定着を目指した指導計画の作成と実践 (2) 評価活動を明確にした指導過程の作成とその授業実践 (3) 望ましい学習習慣や学び方を育てる環境づくり</p> <p>研究内容・方法 (1) 生徒の実態を的確にとらえるため、県学習定着度状況調査、スポーツテスト、CRT 検査の実施と分析 (2) 各教科における評価規準の設定と基礎的・基本的な内容の精選と指導内容の系列化 (3) 評価活動を取り入れた学習指導過程の工夫と実践指導を通じた改善 (4) 家庭学習の習慣化、朝読書、読み・書き・計算リピート学習の推進</p>
	<p>平成 14 年度のテーマ、仮説、研究内容・方法の継続研究。 ただし、研究仮説(3)望ましい学習習慣や学び方を育てる環境づくりにかかわって、研究内容・方法に(5)を加える。 (5) ノーチャイム、教科教室拡大導入による学び方を育てる環境づくり 研究授業による実践交流と検証</p>

平成 15 年 度	<p>平成 14 年度のテーマ、仮説、研究内容・方法の継続研究。 ただし、研究仮説(3)望ましい学習習慣や学び方を育てる環境づくりにかかわって、研究内容・方法に(5)を加える。 (5) ノーチャイム、教科教室拡大導入による学び方を育てる環境づくり 研究授業による実践交流と検証</p>
--------------------	--

平成 16 年 度	<p>平成 15 年度のテーマ、仮説、研究内容・方法の継続研究を基本とする。ただし、平成 15 年度の反省をもとに、研究を深める。 日課表の工夫を図りながら、基礎・基本の定着を図るためのスキル時間の確保(繰り返し学習)の検討をする。 学力向上フロンティア地区推進会議を基に、学校公開研究会の開催準備を進める。</p>
--------------------	--

### (3) 研究推進体制



### 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

#### 1 研究の成果

授業研究会による実践交流を実施し、各教科の特性を考慮しながら共通して実践できる下記の内容の検討ができた。

振り返りカードの活用 自己評価を用いて、分かったこと、分からなかったことや疑問と思われることを文章で把握することにより、生徒の次への自己課題につなげるように指導することができた。

小グループによる学習活動の推進 教え合い、つまずきの解決、話し合い、話し合いの結果を全体に発表するなど、小グループのよさを生かすことができた。

望ましい学習環境作りの強化と改善を図り、主体的に学ぶ姿勢を育てることができた。

ノーチャイムの実施 生徒自らが学習時間を守り、学習準備など授業への前向きな姿勢をつくることができた。8割の生徒が「よかった」と回答している。

数学室、社会室の教科教室の設置(空き教室の利用) 自分から進んで教室に行くという主体的に学ぶ姿勢が育ち、教科に常設すべき教材設備で効果的な授業ができた。

CRT検査結果(得点率の全国との比較)で、数学の結果を前年度と比較するとほとんどの観点が向上した。他の教科の観点についても向上が見られた。

観 点	第2学年(14年度 15年度)		第3学年(14年度 15年度)	
関心・意欲・態度	96.0	103.3 (7.5 上昇)	94.2	98.1(3.9 上昇)
数学的な考え方	101.3	95.8 (5.5 下降)	79.3	85.2(5.9 上昇)
数学的な表現・処理	83.0	90.2 (7.2 上昇)	90.3	92.7(2.4 上昇)
数量・図形の知識・理解	80.8	96.0 (15.2 上昇)	90.1	93.1(3.0 上昇)

#### 2 今後の課題

少人数指導を数学と英語で実施したが、更にTTの指導、習熟度別指導の在り方について研究・実践を深める必要がある。

発表の声が小さいこと、積極的に手を挙げて発表する生徒が少ないことなどから、教育活動全般を通し、自己表現力を高めるための工夫が必要である。

基礎・基本の確実な定着を図るため、次の内容の工夫・改善を更に進める。

振り返りカードの効果的な活用

小グループの活用(個人解決から、集団解決へ)

スキル時間の確保と活用

## 学力把握のための学校としての取組

- |  |
|--|
| (1) 単元末に、自己評価をもとに生徒自らの課題を解決する補充時間を確保し、個に応じた指導をする。                                  |
| (2) 定期的な学力調査の実施<br>単元末における総括的評価（単元末テストなど）の実施<br>CRT 検査の年 1 回の実施<br>岩手県学習定着度状況調査の実施 |

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- |   |
|---|
| 「平成 15 年度松尾村小中学校一貫教育実践交流会」( H15.7.29 ) の開催。<br>「平成 15 年度第 2 回学力向上フロンティアスクール盛岡地区研究推進会議」( H16.2.23 ) の開催。<br>松尾村学力向上フロンティア協議会の設立と「学力向上フロンティアだより」( 年 5 回発行 ) の教育関係者及び地域への配布。<br>学力向上、生活向上について P T A、職員との協議会の開催。( 年 2 回 )<br>学校通信「はらから」による、各家庭への広報活動。 |
|---|

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。( 複数チェック可 )

- |                      |                                   |                                   |            |               |
|----------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|------------|---------------|
| 【新規校・継続校】            | 15 年度からの新規校                       | ／14 年度からの継続校                      |            |               |
| 【学校規模】               | 3 学級以下<br>／7 ~ 9 学級<br>13 ~ 15 学級 | 4 ~ 6 学級<br>10 ~ 12 学級<br>16 学級以上 |            |               |
| 【指導体制】               | ／少人数指導<br>その他                     | T . T による指導                       |            |               |
| 【研究教科】               | ／国語<br>／外国語<br>／保健体育              | ／社会<br>／音楽<br>その他                 | ／数学<br>／美術 | ／理科<br>／技術・家庭 |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | ／有                                | 無                                 |            |               |